

桃林軒-都留にある松尾芭蕉の住居

この小さな建物は、有名な俳人、松尾芭蕉(1644～1694)が住んだ「桃林軒」を復元したものです。芭蕉は武士の家に生まれましたが、文学を追求するために地位や特権を放棄しました。彼は俳句にミニマリズムの美学を導入し、単なる娯楽であった俳句を洗練された芸術に高めました。

芭蕉は、江戸（現在の東京）の大部分を破壊した大火事で自宅を失った後、谷村藩主の家老高山伝右衛門(1649～1718)の招請で、1683年の初めにこの地域にやってきました。芭蕉の5ヶ月の滞在の間、高山伝右衛門の敷地の隅にある小さな家屋に滞在しました。ここで芭蕉は2つの俳句集を制作しましたが、その中には多くの有名な句が含まれています。谷村には、これらの俳句を冠した石碑があちらこちらにあります。元々の桃林軒は取り壊されましたが、2004年に芭蕉が都留に滞在し、ここで学問にはげんだこと記念して再建されました。